

科研費シンポジウム

「赤とんぼ歌碑」 建立60年



三木露風 未来への遺産

— 童謡の里たつのとともに継承 —



「赤とんぼ」を作詞した頃の三木露風
(大正11年 函館にて)

開催日
2025年

11月1日 土

受付/13:00
開始/13:30



歌碑除幕式(昭和40年5月28日)
※中央は露風の妻 三木なか氏

【会場】霞城館・矢野勘治記念館

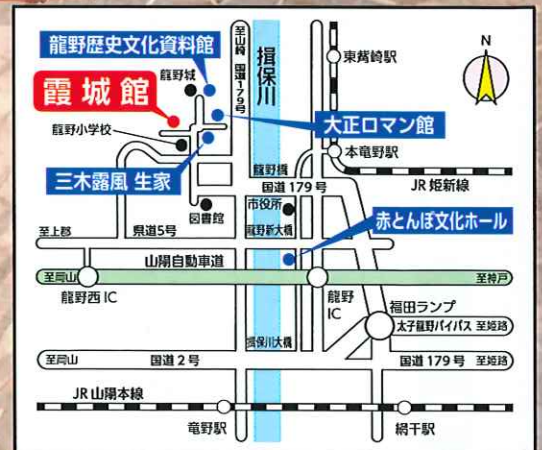
【定員】50名 (先着順、事前申し込み必要)

【参加費】無料

【主催】研究代表:近藤健史 令和5年度科学研究費助成金基盤研究(C) 一般
研究課題:三木露風の未公開作品と資料の整理・公開及び露風の再評価
に関する発展的研究

【共催】公益財団法人童謡の里龍野文化振興財団 霞城館・矢野勘治記念館

【後援】たつの市教育委員会、碧川かたを朝ドラの主人公にする会、霞城館友の会、
碧川かた研究会、三木露風研究会



【申込み・問い合わせ先】

霞城館・矢野勘治記念館

兵庫県たつの市龍野町上霞城30-3 TEL・FAX 0791-63-2900
URL: <https://www.kajoukan.jp/> E-mail: info@kajoukan.jp



三木露風 未来への遺産

— 童謡の里たつのとともに継承 —

三木露風(1889年～1964年)の生誕地たつの市に童謡「赤とんぼ」の歌碑が建立されて60年を迎えた。また、作曲者の山田耕筰(1886年～1965年)が没して60年になる。

露風は北原白秋と並び「白露時代」と呼ばれ大正時代の代表的な詩人となり、詩、短歌、俳句、童謡、小説、随筆、紀行文、詩論、評論、キリスト教関連文など多くの作品を残している。

しかし現代における露風は、童謡「赤とんぼ」の作詞者として知られているが、その作品へ関心を寄せる愛好者は少ない。また露風の研究は象徴詩と童謡を中心に盛んであったが、近頃では研究者も減少しているのが現状である。

その要因としては、例えば刊行された作品集が少ないこと、作品が教育現場で十分に扱われていないことなど、露風や作品を理解する機会が少ないことがあるといわれている。

これまで多くの方々が露風に関する資料や情報の収集と保存、研究、普及事業や顕彰、人材育成など多岐にわたって活動を続け情報を発信しているが、その問題の解決には至っていないように思われる。

本シンポジウムは、露風の残した多くの遺産をどう未来に活かすべきかについて多様な視点から考え、露風に関する機運を高めていくことを目指し、露風の生誕地・童謡の里たつのから発信することを目的とする。

シンポジウムプログラム

司会：高綱博文
日本大学 名誉教授
三木露風研究会会員

13：30～13：35

松尾壯典 霞城館長
開会挨拶

13：35～14：05

近藤健史 元日本大学教授
〔基調報告〕「三木露風の遺産と研究」

14：15～15：15 【パネルディスカッション】 コーディネーター 近藤健史 元日本大学教授

テーマ 現状と提言 三木露風の未来への遺産をどう継承するか

14：15～14：30 パネリスト報告① 瀧口節子 碧川かたを朝ドラの主人公にする会 発起人代表 「赤とんぼよ永遠に」

14：30～14：45 パネリスト報告② 楠田真 たつの市立揖保川図書館長 「デジタル時代における郷土文学振興」

14：45～15：00 パネリスト報告③ 和田典子 元姫路大学教授 「赤とんぼの歌曲碑を巡って—三木露風の理解者たち—」

15：00～15：15 パネリスト報告④ 白石愛子 姫路大学准教授 「歌い継ぐ三木露風の童謡」

15：15～15：20

歌：白石愛子 ピアノ：山本千紗
姫路大学准教授 姫路大学准教授
露風の童謡を唄う

15：25～15：55

〔ディスカッション〕

15：55～16：00

主催者 近藤健史 元日本大学教授
閉会挨拶

「赤とんぼ歌碑」 建立60年記念企画展

三木露風と「赤とんぼ歌碑」

【場 所】 霞城館・矢野勘治記念館 【日 時】 10月25日(土)～12月14日(日) 開館時間 9:30～17:00 (入館は16:30まで)
【入館料】 一般200円 小～大学生・65歳以上100円 【休館日】 月曜日 11月4日(火)・5日(火)・25日(火)・26日(水) (11月3・24日は開館)
(※市内小中学生無料、ひょうごっ子こころカード提示で無料)